

本校OBが南極で活躍！衛星回線で同報 南極教室 in 多賀城高校

5月8日(水),衛星回線を利用したテレビ会議システムで多賀城高校と昭和基地を結び「南極教室」が行われました。多賀城高校31回生の内海雄介さんが第60次南極地域観測隊の越冬隊として活躍しており、観測の意義や南極の自然、隊員の仕事や生活について教えていただきました。昭和基地から観測隊の生の声を聞くことができる貴重な機会となりました。

【参加生徒の感想】南極での生活は大変だけど楽しいとお聞きし、命の危険と隣り合わせであるにも関わらず、そういうことができるのは、皆さんが真剣に南極のお仕事に取り組んでいるからだと思いました。これからも頑張ってください。宮城から応援しています！



南極の氷を触り、感触の違いを実感しました。



「人生の先輩に聞く」宇宙飛行士・金井宣茂氏

宇宙教室 in 多賀城高校

6月25日(火),本校の全校行事「人生の先輩に聞く」という講演会に宇宙飛行士の金井宣茂氏に来ていただき貴重な宇宙でのお話を伺いました。金井さんは外科医師、潜水医官を経て宇宙飛行士となり、昨年の6月まで約半年間、国際宇宙ステーションに滞在し、さまざまな活動を実施しました。宇宙での活動の様子や宇宙飛行士選抜試験で出会った仲間とのこと、一歩踏み出して挑戦することについてお話していただき、生徒からの質問にも丁寧に答えていただきました。

【参加生徒の感想】金井さんのお話の中で大切だなと思ったことは、夢をあきらめないで頑張ることです。私は自分のやりたいことから目を背けてしまうことがあります。お話を聞いて夢や自分のやりたいことから逃げないで頑張ろうと思いました。



インドネシア・SANTA LAURENSIA SCHOOL (サンタローレンシア校)との交流

本校災害科学科の生徒とインドネシアにあるサンタローレンシア校の生徒間で協働型プロジェクト学習を進めており、現在は本校の2学年生徒4名、サンタローレンシア校中学3年生9名とで交流を行っています。お互いに母語は違うものの、英語を使って交流を続けています。

これは、プロジェクト学習を通じて、参加生徒が積極的に他国の生徒と意思疎通を行い、互いの共通点や相違点に興味を持ち、その交流を通じて科学に対する理解を深めることを目的としています。また、両国ともに火山噴火・地震発生地域にあるという共通点があり、交流をとおして火山・地震災害に立ち向かうための強い絆を結びつつ、世界で共通する防災・減災への取り組みへの理解を深めることも目的としています。

推進にあたっては、宮城教育大学の支援をいただきながら、ZOOM(アプリ)を利用してコミュニケーションを進めています。ZOOM会議前にはメールを通じて交流内容を共有し、月に1回の頻度で交流を行っています。

今年度の国際協働型プロジェクト学習の経過としては、2020年に京都で開催されるISN主催の「生徒国際イノベーションフォーラム2020」での協働発表に向けての準備を進めています。互いの課題研究の内容を共有し、協働発表の内容の検討を始めています。参加生徒は英語でのやりとりで困難さを感じているものの、英語で意思疎通ができることに喜びや達成感も感じているように見えます。



被災された皆様へ

宮城県多賀城高等学校生徒一同

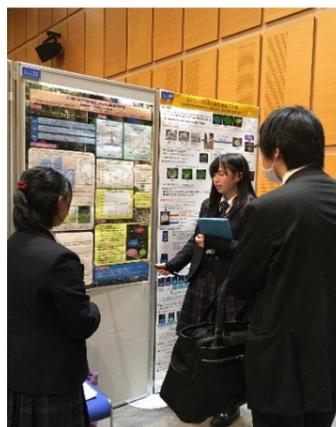


〇千葉県立船山総合高校と記憶メッセージを送りました。
〇河北新報社を通じて義援金を寄附してきました。

- 令和元年度 これまでの義援金寄付は...
〇九州北部大雨(1月)被災地・復興支援物資へ ¥196,615
- 〇台風15号被災地の高校 千葉県立船山総合高校へ ¥100,000
- 〇台風19号被災地・宮城県(宮口・河北新報社) ¥255,280

【記憶メッセージ】
私達は東日本大震災を経験し、大きな被害を受けました。ですが、多くの支援と応援の声をかけていただいたおかげで、乗り越えることができました。今度は私達が皆さんを支える番です。皆さんは多くのものを失い、とても辛い状況だと思います。ですが、ここから前進でき、少しずつでも進歩することが大切です。乗り越えることで得られるものが必ずあります。行動することによって未来をより良い方向へ変えることもできます。まずは、できることから、復興のために頑張ってください。一日でも早い復興を祈っています。

北は北海道から南は沖縄まで、更に海外からの発表者が来る大きな発表会でした。



平成31年3月23日、24日の2日間、茨城県つくば市のつくば国際会議場で「つくばScience Edge 2019」が開催されました。未来の科学者を目指す中・高校生がつくばの地に集い、ノーベル物理学賞受賞者の江崎玲於奈博士をはじめとした日本を代表する科学者達が直接審査・アドバイスをを行う、未来の科学者に贈る新しいタイプのコンテストです。本校からは科学部から「宮城県多賀城高校 Bursar. マスターズ Part2」「海藻類による環境評価と環境保全」「縦波と横波の速さの違いについて」の三本、災害科学科から「いのちとくらしを守る災害医療」「震災による植生への影響と環境要因の結びつき」「土壌中の窒素化合物濃度測定による津波被災地域の一考察」の3本のポスター発表を行いました。この体験を通して生徒達は、情報発信力や表現力を養うとともに、多くの発表を目的の当りにしたことで、図表の効果的な配置の仕方やテーマ設定等、探究活動の基礎の多くを学ぶことができました。



Science Edge 2019

令和元年度様々な災害に見舞われましたが、生徒会として「被災された皆様へ」と題し、メッセージを送りました。【学校HPに掲載】